

日本発生生物学会・日本細胞生物学会合同年会（神戸）アンケート結果
回答数：145

Q1. 所属する学会について

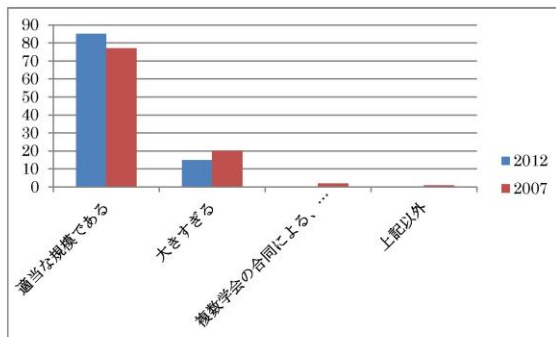
No	選択肢	投票数	投票率
1	日本発生生物学会	67	46.2
2	日本細胞生物学会	73	50.3
3	両学会	5	3.4

Q2. 合同大会として規模は？今回は約 1,200 名

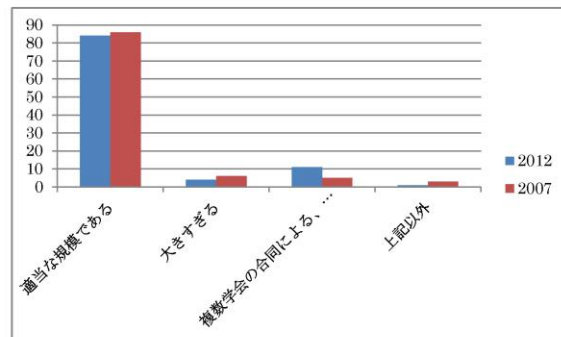
No	選択肢	日本発生生物学会	日本細胞生物学会	両学会
1	適当な規模である	57	61	4
2	大きすぎる	10	3	0
3	複数学会の合同による、より大きな大会も視野にいれる	0	8	1
4	上記以外	0	1	0

Q2. 合同大会として規模は？今回は約 1,200 名

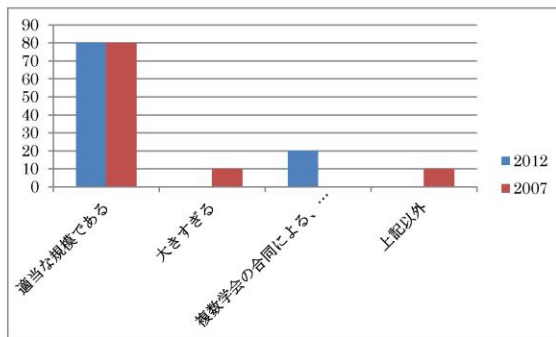
発生生物学会



細胞生物学会



両学会



ご意見

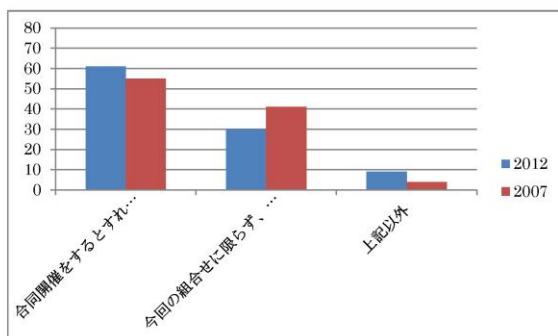
1. 今回の学会のキャッチフレーズを「わかってもらってなんぼ」とするのであれば、やはり国内学会は最も深くコミュニケーションできる日本語で実施するのが一番だと思います。特に学生諸君にとっては発表するあるいはされている研究の内容を伝えたい、理解したい、また深く議論したいと感じているので、出きる限り日本語の環境を提供する必要があると思います。分かることは楽しくなる根本です。若手を大事にしない学会に将来はないと思います。英語のブラッシュアップは学会とは別に努力して欲しいし、昔と違って学生さんでも海外の学会に参加することは簡単であり、海外の学会で発表すれば英語で議論せざるを得ない状況になるのでそちらで楽しんで欲しいと思います。日本の学会でそれも日本人同士で英語を用いて不十分な議論をする意味がわかりません。私の考えは古いのでしょうか。執行部の皆様におかれましては、学会(大会)の本来の目的である「わかってもらってなんぼ」について再考頂き、善処くださいますようお願い申し上げます。
2. と思うけれども、ポスター3階側の狭さには少し閉口した
3. 大きすぎるとは感じなかった
4. やはりそこまで大きくない学会なので、合同にして規模を大きくしないほうが、もっと密な学会が開けると思う
5. ワークショップやシンポジウムの数が多すぎて全く参加した気がしなかった。
6. 今回くらいの規模は、ポスター発表での討議が十分になるので、最適であると感じられました。
7. ポスター会場がまとまっている方がよいと思います。
8. 大きすぎず、小さすぎず、ちょうどよかったと思います。
9. 人数から規模を計ると適当の様に思えるが、会場の適当さを考えると神戸国際会議場は建物の構成などに関して不適當であった様に思う。今回の様な規模で開催するなら、開催場所を人の流れを考慮して選定するべきであろう。
10. ポスターも口頭発表も発散していて、テーマをもう少し絞った方が分かりやすいと思います。
11. ポスター会場をもう少し広めにとった方がよいと思います
12. 規模は適当と思われるが、細胞生物学会に所属の私としてはシンポジウムの内容など混乱するものがおおく、また今回の学会の「わかってなんぼ」の趣旨とはほど遠くわかりにくいものが多く感じられた
13. 場所の選択が重要になると思う。
14. 細胞生物+発生の組み合わせという意味では規模は適当と思われるが、もちろん、他学会との合同もあり得る。ただ、学会によってタイトな融合が可能な学会とそうでない学会もある一方、効率化の観点から同時開催は望ましく思われるので、合同とは限らず、併会も良いと思う。
15. 発表や展示が充実していたと思う。
16. 合同大会の割には、丁度よい規模の人数になったと思います。

Q3. 他学会との合同開催について

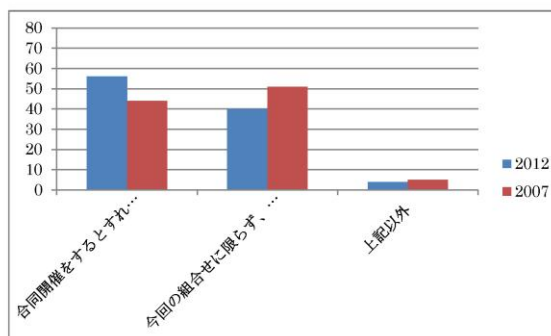
No	選択肢	日本発生生物学会	日本細胞生物学会	両学会
1	合同開催をするとすれば、今回の組合せが適当である	41	41	4
2	今回の組合せに限らず、他学会との合同大会開催も模索すべきである	20	29	1
3	上記以外	6	3	0

Q3. 他学会との合同開催について

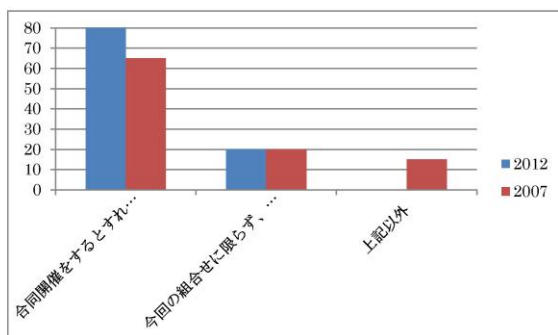
発生生物学会



細胞生物学会



両学会



ご意見

1. 発生の話が聞きたくて、発生学会に参加しているので、他との合同は不要。発生以外の話を聞く必要があれば、細胞、遺伝、動物、分子、生化等の学会に参加しています。
2. 適当であるが、進化発生学を含む一部の領域は細胞生物学会との合同は必ずしも馴染まない。そのような領域にとっては進化生物学会との合同も考えられるのではないだろうか。
3. 合同開催の思想の中には、学会の偏執化に対する危機感があるように思います。合同開催による改善も一利ありとは思いますが、学会内で多様化を推進することを優先させた方が健全ではないでしょうか？
4. 発生生物学は発生現象の理解という目的のためなら、手段は何でもありというのが趣旨なので、いろいろな組み合わせを考えても良いのではないかと思います。(学会の規模などでいろいろ制約はあると思いますが)

5. 進化やシステムスバイオロジーなど、タイアップしてもよい分野はあるが、まだ時期尚早な感はある。しばらくは、比較的規模が同じである発生生物学と細胞生物学会との合同でよいと思います。
6. 新参なので可能なのかわかりませんが。
7. 今回の組み合わせは良いと思うが、それ以外の組み合わせがあっても良いと思う
8. 合同開催はすべきではない。今回の学会は分野外の発表が多く、つまらなかったから。
9. 合同大会であるということを特に意識しなかったほど、自然に融和できていた。
発生生物と比べて細胞生物の方は活気が少ないように感じられた。
10. 合同大会の開催の意義が全く理解出来ない。年に一回しかない年會を合同開催にするなら、学会の意味はどこにあるのか。年に1度はちゃんとした年會を開くというのが、執行部から会員に対しての最低限の義務のような気がするが、いかがか。合同開催は5年に一回だからよいというものではない。合同開催をしたいなら、学会そのものを合同にすればよいし、それに抵抗を感じるならば、合同開催をやめればよい。合同開催でなくとも、互いの年會にシンポジウム等で招聘演者を呼ぶ等の交流の仕方はあるはず。修士の学生にとっては今年年會が唯一の参加機会かもしれないということはどう考えるのか？ 若手を育成し裾野を広げるとするのは、合同開催の対極にあるとさえ感じる。
11. 植物はわかりません。
12. 今回の組み合わせが相性は良いと思いますが、別の学会との合同開催も試す価値はあると思います。
13. 細胞生物学は、細胞を使った応用研究の前提となる基礎知見や非常に高いレベルでの細胞応答計測法を有するにも関わらず、工学や薬学などの応用分野と連携して行われている研究が非常に少ないように思う。学会という学生からPIまでが一同に会する場を利用することで、このような連携をより活性化できるのではないだろうか。
14. 細胞生物が発生生物と開催時期を合わせるために開催時期を秋から春に変更したと認識しています。開催時期が同じことは重要なファクターなのだとそのとき認識しました。また、細胞が春に移動するのは、関連の生化学会、分子生物学会が秋から冬に開催されていて、それらと半年ずらすことも関係していました。従って、内容も考慮して発生以外は考え難いのかなと思います。
15. バイオ専門でないため、生物の関わりを両面から見れるので参考になります。
16. 今回の組み合わせに加えて、さらに合同できる学会を探してもよいかも
17. 同上。
18. 発生生物学会と細胞生物学会は、合同大会によって十分な相乗効果が得られると思う。
19. 適度な間隔(3-4年おき)での合同大会を希望します。
20. 発生との接点は増えていないことが分かりました。
それだけでも有意義ではあったが、メリットは少ないと思います。

Q4. 合同大会の開催が可能な学会にはどのような学会がありますか？

日本発生生物学会

1. 進化学会、動物学会
2. 日本 RNA 学会
3. 進化生物学会
4. 遺伝学会とか。または RNA 学会とか。
5. 特にない。
6. 動物学会や遺伝学会とかでしょうか。最近の発生生物学会は洗練されているので、若手にドロドロ感を感じていただくのも悪くはないと思います。
7. 日本動物学会
8. たとえば細胞生物学会との合同を基本としても、2～3年に一度つつ他の年に進化生物学会、また他の年に植物学会などと組み合わせても良いかも。
9. 分子生物学会神経科学会
10. 進化学会
11. 他の学会を知らないのではわからない。
12. 動物学会
13. 生化学, 分子生物学, 生物物理などの「学会の1領域/部門」が可能であれば, 相互に知見や技術的な事柄が交換でき, 学ぶ事が多いと思われる 教員であれば身銭で複数の学会に所属して参加せよとなるが, 学生さんには, 多数の学会に所属する負担が大きいため
14. 進化学会、動物学会、遺伝学会
15. 日本動物学会
16. *C. elegans*、プラナリア、小型魚類など実験動物に特化した学会。特に発生であまり発表しない人たちが入っているもの。
17. ない。細胞生物学会が最適である。
18. なし。年会の合同開催が前提になっているようにも聞こえるが、そこまで日本の発生生物学は衰退してしまったのであろうか。
19. さっと思いつくものはありませんが、同規模であることが大切のような気がします。相手の学会の参加人数の規模が大きすぎても小さすぎても良くないでしょう。
20. 生物物理学会
21. 再生医療学会
22. 日本動物学会
23. 生殖医療関係の学会

日本細胞生物学会

1. 詳しくは知らないが、組織化学会や場合によっては解剖学会
2. 細胞生物、動物、発生生物の合同。
3. 生物物理学会、神経科学会
4. 神経科学会、生物物理学会、蛋白質科学会

5. 生化学、分子生物学
6. 日本組織化学会、電顕学会
7. DDS 学会、バイオマテリアル学会など
8. 神経科学学会 神経化学学会
9. 生物物理学会
10. 生化学会、分子生物学会、解剖学会、農芸化学会 ほか
11. 生理学会など
12. 分子生物学会
13. 考え難い。
14. 生物物理学会
15. Yes
16. 生物物理学会
17. RNA 学会
18. 生化学会、生物物理学会
19. 日本結合組織学会、マトリックス研究会
20. 生物物理? :9 月ごろ。やや先方の規模が大きすぎるが。。。
21. 顕微鏡学会(顕微鏡観察を基本にしている)、蛋白質科学会(開催時期が近い、規模も同じくらい)、生化学会(分子生物と別開催となるなら、生化学会を中心にいくつかで合同することも可能かも)、その他、小規模学会と多数同時に開催(時期・場所のみ合わせて別開催でもよい)
22. 生化学会
23. 神経科学、生物物理、イメージング学会
24. 生物物理学会
25. 発生生物学会がベスト
26. 染色体学会、バイオイメージング学会
27. 動物学会、植物学会
28. 日本生物物理学会
29. 組織培養学会、放射線影響学会、血栓止血学会、

両学会

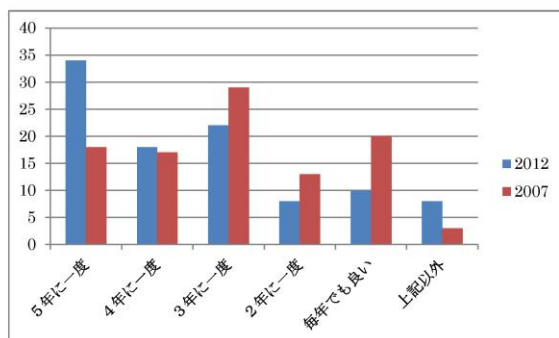
1. 可能性としては、遺伝学会、動物学会、生物物理学会、進化学会などがあるとは思いますが、これらの学会では発生学会会員が参加しにくい分野があるように思います。合同でやっても多くの会場ではどちらかの会員が参加していることになり、合同でやる意義は少ないように思います。年会とは別に、サテライト的にやることは可能かもしれません。

Q5. 今後も日本発生生物学会と日本細胞生物学会が合同大会を開催する場合、頻度として望ましいのは？

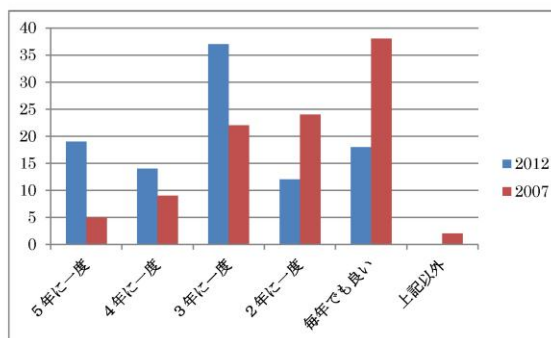
No	選択肢	日本発生生物学会	日本細胞生物学会	両学会
1	5年に一度	23	14	0
2	4年に一度	12	10	2
3	3年に一度	15	27	1
4	2年に一度	5	9	0
5	毎年でも良い	7	13	2
6	上記以外	5	0	0

Q5. 今後も日本発生生物学会と日本細胞生物学会が合同大会を開催する場合、頻度として望ましいのは？

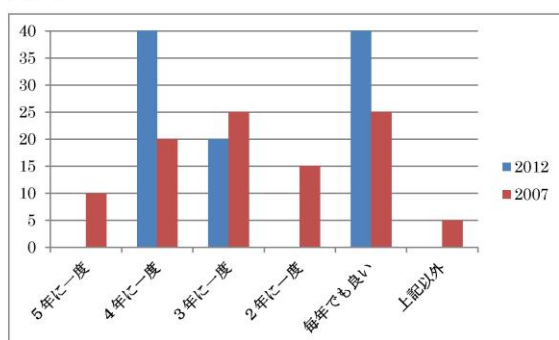
発生生物学会



細胞生物学会



両学会



ご意見

1. 不要
2. 無くてよい。
3. もう少し頻回でもいいかも。
4. 懇親会では3年とも言われていたが、頻度的には4年の方がちょうど良いと思う。
5. 発生生物学は細胞生物学と切り離しては議論できないところもあるので、もう少し頻度を高めてもよ

いと感じました。

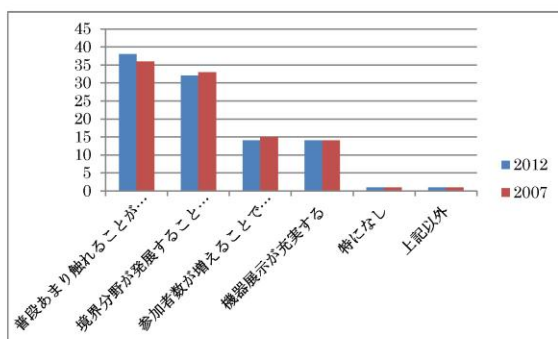
6. 修士までで大学院を離れる学生の多い今、3年間の間に1度は細胞生物学会との合同年会があると良いと思いますし、例えば、M1の時に合同年会で知り合った他の学生とドクターの時にまた再会して仕事を聞きあう等という為にも、5年というスパンは少し長いのではないかと思います。
7. 適当だと執行部が判断されて年次にとらわれず行ったらよいかもかもしれません。
8. この組み合わせを合同開催のコアとして、それ以外の学会や勉強会とのジョイント形式も不定期に入れる いくつかの学会、研究会を同時にエンロールしてもよいかもかもしれません
9. または3年に一度
10. しなくていい
11. 内容的にはもっと頻度を上げてもいいと思うが、かなり参加人数がふえるので、結局、個人的に得られる情報が薄まる可能性が高い
12. 発生生物学会は今や実験手法でもあり、発生生物学という学問的くりは意味がなくなりつつある。発生を理解するためには単にマーカーの発現を見るだけでなく、細胞で何が起きているか、その挙動はどうかを見る必要に迫られており、発生生物学研究者はまさに細胞生物学的視点を求められている。
13. 合同開催はやめるべき。
14. 今回くらいの規模で行う方が通常よりも良いように思いました。
15. 他の学会との合同を試すのを、合同学会の間にやるのはどうでしょうか？
つまり、単独、他の会との合同、単独、発生・細胞生物の合同を4年周期で繰り返すということになります。
16. 合同大会は普段接することの少ない研究の話が聞けて興味深いが、頻度を上げるメリットをあまり感じない。単独開催程度の規模での密度の濃い議論もよいと思う。
17. 5年では遠いし3年は近い気がしたので間を取って。
18. これからはこれまで以上に進歩が早くなるので間隔はもう少し縮めても良いのではないのでしょうか・
19. 今回の合同大会は非常によかったと思います。頻度をふやしてもいいと思います。
20. 3年に1度は、頻度が高すぎる。許容は4年に1度まで。
21. 他の学会との合同がない場合は、この2者で3(ないし2)年に1度でもよいと思う
22. 業績的に4年周期が良い。発生と細胞生物の理解の助けになる。
23. 5年はやや長い、3年以下ではちょっと頻繁という印象があります。
24. 毎年にするべき。何もデメリットはないと思う。
25. 細胞生物学会だけの時は、シンポジウムよりも一般発表に力点を置き、全部を口頭発表(日本語がよい)、隔年で合同大会にして、その時は、シンポとワークショップに力点を置く。

Q6. 合同大会開催のメリットは？ 複数回答可

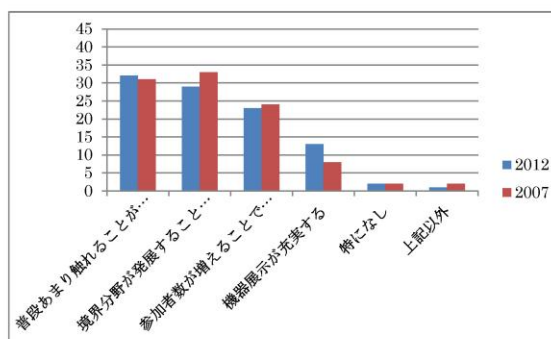
No	選択肢	日本発生生物学会	日本細胞生物学会	両学会
1	普段あまり触れることが少ない研究に触れることができる	55	54	5
2	境界分野が発展することを予感させる	47	51	4
3	参加者数が増えることで会場に活気が感じられる	21	40	1
4	機器展示が充実する	20	23	2
5	特になし	2	3	0
6	上記以外	2	2	0

Q6. 合同大会開催のメリットは？ 複数回答可

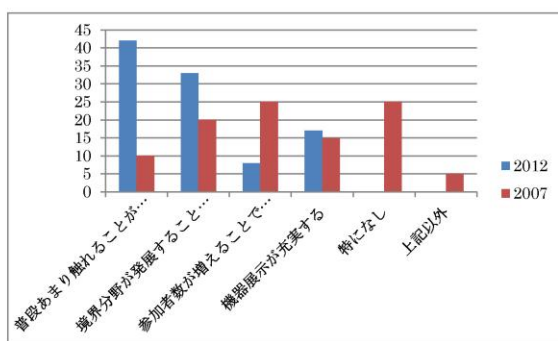
発生生物学会



細胞生物学会



両学会



ご意見

1. 懐かしい人に会える
2. 確かにメリットはありますが、これらのメリットは合同開催を行うことでしか出せないというわけでは無いように感じます。
3. より多くの知り合いに会えて話せたのは良かった。分子生物学会は大きくなりすぎて、知り合いに会えない。
4. 他分野の情報はとても役に立つと思う。本来生物学はそのような基盤に乗っ取ってすすめるべき。発生若手ランチョンで、藻類の話などは、内容の是非よりも単純に生物学への興味から多くの人が

聞いていたし、たかだか鞭毛藻が餌をばくつとたべた動画でも「お〜っ」とどよめいていたのが印象に残る。このような盛り上がりは大事にしたい。

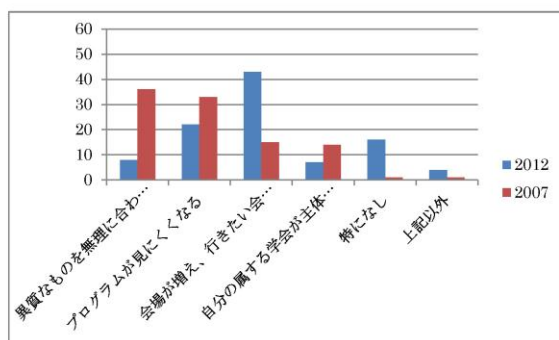
5. 様々な分野の研究者の方と知り合うことができた。
6. もともと細分化・多様性の減少が生じており、境界領域は既に存在しえない状況。システムバイオロジーのみが今や境界領域。このような状況で合同開催するのは政治的意味以外あまりないようにも思えます
7. シンポジウムやワークショップでは、異なる分野での最新の情報が得られるし、ポスターでは異なる分野の研究者との交流がはかれるので良い試みだと思います。
8. 普段あまり触れることが少ない研究に触れることができるのはメリットかもしれないが、それはワークショップやシンポジウム(ごく少数で十分と思われる)を企画すれば済むことなのでは? 様々な話題に触れたいのならば既に分子生物学会という巨大な学会があり、それで十分ではないのか。
9. 機器展示、書籍展示が少なかったのが残念。
10. 細胞生物学の今後の方向性として、細胞内の事象の解析にとどまらず、発生等のより複雑な事象を扱う方向や、単純化として数理モデルの応用の方向に行くことは避けられないと思います。そのような際に発生生物学の知識は不可欠になると思いますので、今後交流を進める必要性は益々増加すると思います。
11. 特に若手研究者により刺激が与えられると思いました。
12. 関連がある分野なので、一回参加したときに入る情報量が単純に増えると思う。
13. 上記に加えて、両学会に参加している会員にとっては、一回の出張で両学会の年会を済ますことができる。
14. 参加費が安くなる、出張回数が減る
15. 異分野の方からの指摘、アドバイスがもらえる可能性がある。
異分野の技術、考え方が自分の研究テーマにも当てはまる可能性がある。
異分野の中での、自分の研究テーマの位置づけを再認識できる
16. 今の発生生物学は細胞内部のマシナリーへの関心が必須なので、細胞生物学会との合同大会は有意義であると思います。
17. 細胞生物学会では会えない(分子生物学会では大きすぎて出会えない)研究者に出会うことができ、重要な情報交換をすることができた。
18. ランチョンセミナーも充実していたと思います。
若手の参加者も多く感じました。
19. 2学会が合同しても機器と書籍展示が全然寂しい。
20. 経費の面で運営が楽になる。
21. 両方の大会に参加する手間が省ける

Q7. デメリットは？ 複数回答可

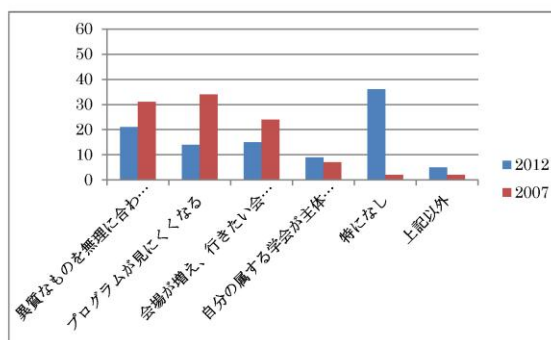
No	選択肢	日本発生生物学会	日本細胞生物学会	両学会
1	異質なものを無理に合わせた印象がある	8	19	0
2	プログラムが見にくくなる	19	13	0
3	会場が増え、行きたい会場を探すのが面倒	38	14	1
4	自分の属する学会が主体となったセッション以外に聴きたいものがない	7	8	0
5	特になし	15	33	3
6	上記以外	4	5	1

Q7. デメリットは？ 複数回答可

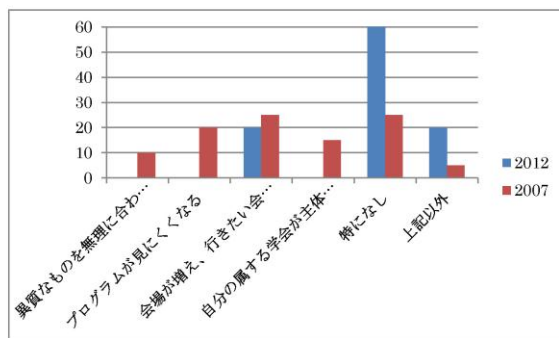
発生生物学会



細胞生物学会



両学会



ご意見

1. わたしは発生生物学会会員ですが、個人的には細胞生物学会に入会しようというモチベーションには繋がりませんでした。合同開催を行うことで、双方の会員数などの増加などはあるのでしょうか？ 合同開催の成果として、会員数の変動は指標にはなるのではないのでしょうか。
2. 口頭発表が6つも並行して走ってしまうことに尽きると思います。昔のように1本と言わなくても、2本くらいで走らせられればとは思いますが。
3. プログラムは多少見にくかったが、それでも内容の分配などよく工夫されていたと思う。
4. 演題が多かったので、ききたいセッションが重なってしまって残念だった。

5. 開催者側の仕事が大きく難しくなるということが合同年会のデメリットではないかと思います。でも、ある程度頻繁であれば、上手く行く組み合わせの傾向も出来てくるかも知れませんが、参加者も慣れてゆき、普段なら聞かない分野の発表に刺戟を受けられる様になれたらと思います。
6. 自分の知識が足りなくて専門でさえ覚束ないことが分かった。
故に他分野ともなるとさらに良くわからないので私にはデメリットが分からなかった。
(わかってもらってナンボではあっても、聴衆には一定の前提が必要であることは否めないと思いますので。)
7. たこつぼ化が進みすぎ。学会のテーマであるわかってもらってなんぼは浸透していなかった。そもそも15分では難しいかもしれません。
8. 自身に近い分野の研究だけを聴く見るようになり、かつての1-2会場時代のような、広く分野を見渡せるような雰囲気は既に減っていることが促進されてしまう(善し悪しではありません)
9. 行きたいものが重なる
10. やはり、発生ですらまったく分野外のセッションがあるのに、細胞生物だとなおさらある。
11. 懇親会で細胞生物学会の方が少なかったのが残念だった。
12. せっかく学会に参加しても、聴きたい演題が重なって聞けないのでは、何のために参加しているのかわからない。また、発表する側としても聞いて欲しい人に聞いてもらう機会が減る。普段の年会でも複数の会場で同時進行していて多少の問題を感じるのに、わざわざ合同年会にして余計に聞きにくくする意味はあるのか？ これまでの経緯や単なる惰性で合同開催に流れているのではないかという疑念さえ感じる。
13. プログラムの目次頁に更に詳細な情報の頁が書かれている今回のやり方はとても良かった(細胞生物学会ではめずらしい)。マーク等でどちらの学会のひとの発表かが分かるようにすると良いと思う。
14. 興味のあるセッションが同じ時間に並列していて、残念に思いました。
15. 合同大会と言っても、全てのセッションを合同する必要はなく、それぞれの学会員のみ発表者で構成されるシンポジウム・ワークショップが存在しても良いと思う。
16. 合同大会ならではのセッションが増えた反面、聴きたい演題が同刻に重なってしまった。特に、細胞移動と細胞接着のように、関連の深いワークショップは時間を分けてほしかった。
17. 細胞生物の人に発生を説明するのであれば、ハエの発生、チキンの発生、マウスの発生とか、テクニクで分類するのが分かりやすいと思います。
細胞生物で言えば、ゴルジのセッションとか区切るとフォローしやすいと思います。rabの世界、topicsを絞った演題募集というのも良いと思います。
18. 細胞に毎年見かけた人が今年はいない、という状況を多数見かけました。実際に、細胞は全体の三割という話を聞くと、そうなのかもしれません。自分は感じていませんでしたが、合同開催が嫌いな人が細胞に多いのかお知れませんが。
19. 無理に混ぜて同じセッションを組む必要はないと思います。
並列開催で十分だと思います。
20. 各学会の存在意義が低下する？会員数の減少に繋がるか？
規模が大きすぎると開催できる場所が限られる

21. 会場移動に時間がかかるが、これは仕方が無い。
22. とはいえ、完全にミックスするのは、プログラム作成の上でも、参加者が口演を聞くにも、ややしんどいとも思います。
しかし、ミックスにしないと結局分かれてしまうことが予想されるので、発表をミックスするのはしんどいながらも良いことなのかもしれません。
23. 一般的な議論ではないが、今回に限って言えば、細胞生物学会の存在感があまり感じられなかったのが少々残念である。
24. 適切な大きさの大会(参加者と濃密なディスカッションができる)になったと思う。細胞生物学会の参加者がこれ以上減少すると、単独開催は事実上無理ではないか？
25. 選択肢が多くありますが、聞きたいものが重なったりもします。
26. 規模拡大による、参加者間のコミュニケーションの減少
27. どうしても会場確保が難しくなるのでは？特に、口頭発表会場によっては、縦に長いわりには、スクリーンが小さくて、下の部分が後ろの席からは、見えないなどの問題があると思います。

Q8. その他、合同大会に関する意見をお書き下さい。

日本発生生物学会

1. メールやプログラム冊子など、大会長の熱い思いがよく伝わってきました。一般的には、大会長からの挨拶はたいいお行儀が良すぎて誰が発言しても変わらないような内容が多いように(関係者への感謝を述べるとそうならざるを得ない。)思う事が多いですが今回は一線を画しました。実は、今大会は参加を見送ろうと思っていた口ですが、大会長の熱い思いに誘われ出てきました。非常に刺激的な学会で楽しかったです。
2. 若手というくくりが曖昧すぎた。明らかに若手でない人が、若手セッションに参加していた。そういう方は通常のワークショップに参加して学会を盛り上げてほしい。
3. ポスターフラッシュトークが非常に良かった。全体で10演題ではなく、毎日15演題×3日=45演題ぐらいが適当。若手の刺激と全体の底上げを考えるのなら、プレナリーやシンポの時間を部分的に削って、ポスターフラッシュトークを充実させた方がよい。
4. 発生生物学会は比較的活気のある学会であり、特段の努力無しに細胞生物学を取り入れるようになっていく。細胞生物学会にとっては深刻な問題であるが、発生生物学会はそれ自体で極めて健全に運営されていると感じる。何もせずに成り行きを見るのもひとつの方法ではないだろうか。
5. 新しい取り組み(たとえば、epigenetics のシンポジウム)をしても会場に人が入っていない。つまり、興味が無い人がほとんどである。新しい取り組みは小さなワークショップから始めた方がいいかもしれません。とにかく、何か人を集める仕掛けが必要。
6. 何事にも栄枯盛衰があるように、学会も解散、統合、名称変更なども含めて、存続のみを目的とするような思想は考え直すべきじゃないでしょうか？ 口頭発表が増加したのは、とてもとてもとてもよかったです！！
7. 合同大会という意味ではなく、一般論を書きます。審査 duty のため、強制的にいろんなポスターの話を聞きました。タイトルだけみると今一でも、話を聞くと思いの外、面白いアイデアで研究しているものが多くて、ちょっと驚きました。みんな、特に若者は、関係ない分野でも聞くべきと思いました。ただ、多すぎて正直全部はカバーできませんでした。ということで、シンポなしの全員ポスター発表・全員口頭発表の会長案に賛同です。1本化に近くなるよう、口頭発表は5分でも3分でもいいと思いました。
8. 辛口な意見ですが;シンポジウムなのだから、take home message が明確なのかと思っていたら、immature なデータがプレゼントされている”シンポジウム”があった。しかもそういう発表は、発表者が、大会長の関係者であるのがわかると、かなりネガティブな印象を受けた。多大なご苦勞をされている大会長だから、そのくらいはいいではないか、という意見もあるかと思いますが、大会長であるからこそ、noblesse oblige であってほしいと、私は思いました。辛口で、すみません。
9. 分野を問わず様々な内容をきくことができ勉強になりました。プレゼンテーションもわかりやすかったと思います。最終日終わる時間が遅くてつらかったです。全体的に休み時間がなくて大変でした。女性の参加が少なかったように思ったが、会員数に対する参加者数は男女で差があるのか気になりました。
10. この合同大会は、口頭発表のセッションが多くセットされ、会員(特に若い世代)の顔が見える形で、とてもよかったです。また、joint workshop、flash talk、若手ジョイントセッションは、細胞生物学と発生生物学の発表をうまくミックスしていたので、参加する聴衆も偏らず、そのため、質疑応答が活発でした。また、ワークショップは分野によっては、聞きにくる研究者が、細胞生物、発生生物のどちらかに偏るケースが見られ、小数派になった分野の発表に対する質問が少ない印象を持ちました。今後の合同大会では、ワークショップももう少し手を加えてもよいかと思います。スケジュールですが、日本の学会は一般にブレイクなしで、3時

間にわたるシンポやワークショップ、口頭発表をやりきってしまいますが、海外の学会のように、一回くらいは間に20分程度のショートブレイクを入ると、少し頭がリフレッシュできるのと、参加者同志の相互作用も活性化できるのでよいと思います。時間的な制約はあるでしょうが、トークを聞いた直後の熱気は、懇親会の際にはうすれてしまいますので、少しスケジュールを調整して、懇親会以外にもインターアクションが出来る場や時間帯を増やしてほしいと思います。最後に、今回は joint keynote symposium などありましたが、他のシンポジウムやワークショップは、従来の分野の枠組みでテーマが設定されている感がありました。誰もが容易に予想できるテーマだけでなく、10年後の発生生物学／細胞生物学の進む方向を予感させる新規テーマのシンポジウムやワークショップがもっとあってもよいかと思います。総会などでも学会のあり方についての議論も、会員からの要望に応えるため、口頭発表の数など形式に関する面が強調されてしまう傾向を感じます。しかし、学会は、本来、研究者が単に個々の発表をするだけでなく、今後進むべき方向を議論する場としての役割があります。一般口演を中心にするると全体的に平均化しますので、後者の役割を可視化する企画が必要だと思います。

11. 聴きたいセッションがかぶっていることが多かった。
12. 今回要旨集に、例えばワークショップの発表に対応するポスター番号や、要旨のページまで載っていたのは非常に便利でした。大変な手数だったと思いますが、合同大会で要旨集が見つらなくなるのが、このおかげで活用しやすくて良かった。
13. 自分のやっている分野に近いせいもあり、基本的に賛成です。
14. PIによる発表は突っ込むところが少ない。若手のセッションを中日にして学会で人を育てる雰囲気が必要かと思います。PIは別に発表しなくてもよいと思う。むしろPIは率先してポスターにすべき。PIが若手の発表の場を奪っている。シンポジウムは本当に必要でしょうか？海外の方々をお呼びするためのKeyで一つもあれば十分ではないでしょうか？たくさん作るがゆえに、細分化を招いているようにも思えます。ポスドク・若手のこれからの夢を聞きたいと強く思いました。
15. 日本では近年、国内および国際学会の合同開催が行われているが、その後に学生を含めた参加者からこのように意見や感想を集め、それを運営側や学会開催事務局が把握する例は少ない。例えばゴードン会議などでは毎回このような意見収集だけでなく、それに対するオーガナイザーの返答が公開されている。今後も意見のくみ上げと、フィードバックを続けることには大きな意味があると思う。
16. これまでの合同大会は、2つの学会大会を同時期に並行してやっているという印象で、融合した感が薄かったが、今回はひとつの年会という感じがして、本当に合同大会だと感じた。良かった。淑子さんの尽力による所も大きいと思う。発生学会員から見ると、いつもの年会がパワーアップしたような印象を受けたが、細胞生物学会の方はどう感じたのか興味のあるところ。
17. 勉強になった。
18. 異なる分野の研究を聞くのは面白いのですが、その分野での基礎知識を知らないと理解できない部分も多いので、ビギナー用のワークショップがあったら良いなと思いました。
19. 参加人数に対するポスター会場の広さが小さく、身動きがとり辛かった。また、ポスターを1日ではがすのではなく、何日間か貼っておきたい、また、貼っておいてほしかった。
20. 年々、ポスターの会場が狭くなっている気がする。混み合いすぎてゆっくり鑑賞もできないし、ポスター間の間隔が狭いので、何人かで一気に説明を聞くこともできない。とにかくそれが一番不満だった。また、シンポジウムは午前中にしてほしい。若手に発表を与える機会が必要なのでワークショップも大事だと思うが、ポスター

があるし、そこまでメインに据える必要はない。あと、最終日は帰宅の時間を考えて、夕方には終わってほしかった。最終のセッションが途中までしか聞けなかった。

21. 合同大会は様々な分野の発表を聞いてよいが、口頭発表は複数の興味あるセッションが同一時間にあり残念だった。口頭発表中心にするのであれば、小規模な学会でもやむを得ないと思う。
22. 今回最も良かったのは初日のジョイントではないかと思う。ワークショップやシンポももっと融合しないと、あまり意味がない。また talk 会場はできるだけ少ないほうがいい。
23. 合同大会は継続するとして、その先に学会の合併を視野に入れた議論を始めても良いと思う。
24. デメリットが大きすぎる。反対である。
25. シンポジウムは複数同時進行して、聞きたいものを選択できるほうが良いと思う。また、最終日は夕方くらいには終了して欲しい。遠方から参加した場合、前泊、後泊まですると計5日間の学会参加となり、負担が大きい。
26. ときどき異なる分野に接するのは刺激になってよいと思います。頻度に関しては運営上の理由で決めたら良いと思います。
27. 合同大会自体は良いと思いますが、国際化・英語化とうまく平行して進ませる工夫が必要。英語の発表自体は多くの方が出来ると思いますが、質疑応答を盛り上げるための工夫(日本語も可にするとか?)が必要かと思います。・記念品はデザインも値段もとても良かったです。愛用させてもらってます。
28. 規模的に、また学問領域的にベストの組み合わせだと思われます。この領域の初心者には大変勉強になる大会でした。

日本細胞生物学会

1. 細胞生物だけにして、全発表を口演にしたらよい。あるいは両方で発表。シンポジウムは、毎年同じ内容でつまらない(同じヒトが同じ内容を話している)日本の学会で無理に英語で討論する意味がないと思う。
2. 今回は国際学会ということもあり、英語での口頭発表でしたが、演者と質疑者との質疑応答がかみ合っていないものが多く、残念に感じられた。英語のみのプレゼンテーションセッションと日本語可のプレゼンテーションのセッションに分けて行うのも一案であると思います。今後のご検討をお願いします。
3. 英語を主体としたせいなのかもしれませんが、学生の参加が少なかったような気がします。分子生物学会、生化学会よりもひとつひとつの仕事をちゃんと見てもらえる可能性が高いといったメリットをそれぞれの研究室が学生に伝えて PI が積極的な学生さんかを促すことで、活気が出てくるのでは無いかと感じました。
4. 今回は、種々に新しい試みがあり、大会事務局のご努力に頭が下がります。若手の oral での発表(英語、日本語)の機会を増やし、encourage していくという試みが主体だったと思いますが、基本的には大成功だったと思います。Day0 のジョイントセッション、および、flash talk が特によかったと思います。ポスター会場が狭かったのが難といえば、難でした。また、ポスターの審査の時間がほとんどなかったのも残念でした。とは言え、ポスター賞を選考するならば、どうしても生まれる問題なので、どうすればいいのかはむずかしいところですね。
5. 今回はポスター会場がせまかった。403号室がせまかった。
6. 学会を英語で行うことには基本的には賛成であるが、準備不足(原稿の準備、プレゼンテーションの準備、英語の発音校正不足)により聞きづらい発表が多かったように思う。まずはサイエンスを重要視するために、学生には日本語での発表も選択できるようにした方がいいかもしれない。プログラムの概要をもう少し早い時期

にオープンにしてもらえると助かる。初日が午後遅くからのスタートであることがもう少し早く分かれば前泊する必要がなかったと思った。

7. 全セッション英語というのは大きな問題である。聞いていてハラハラする。学会は英語の練習の場なのか。そうだとすると我々は参加費を払ってまで英語の練習ののりに付き合わなければならないのであろうか。
8. 以前の合同年会は同じ場所でやっているだけという感じでしたが、今回は境目が感じられず、うまく融合で来ていたと思います。若手を盛り上げようとする企画もよかったと思います。
9. 会場の埋まり具合の良さ、ポスター会場での活気の良さは合同大会のメリットだと思う。シンポジウム、ワークショップは、前回の合同大会に比べると、全体的に内容も活気もやや低調だった気がする。
10. 合同でやる際は、できるだけ境界分野や融合分野に絞ったプログラムが組まれていると、「単なる同一会場での開催」とは違った魅力があると思う。双方の視点の違いが、議論を始める理由になればよいと期待するのだが、結局はいつも、議論をやめてしまう理由になっている気がする。
11. 単独開催はあまり魅力ないので、毎年、違う学会とコラボすべき
12. ポスターセッションの会場が狭く時間によってはかなり混雑していました。もう少し空間に余裕があったほうが良かった気がします。また、ワークショップ会場も日によって人であふれかえっていました。両学会会員が興味を持つテーマで人が集中したためだと思います。調査の上、次回の部屋割りに生かしていただきたいと思います。
13. 今回の大会では英語が基本言語でした。それ自体はよいのですが、異なった分野の詳細な話を英語で聞くにはやや難があると思います(レビューならまだ良いのですが)。
14. ポスター会場が混み合い過ぎており、見たい演題を見ることができなかった。このくらいの規模なら、もう少し大きな会場の方がよいかも。発生生物学の色が強く、細胞生物学は同刻に押し込められた感があった。その分、普段は聴かないような発表に触れることができたというメリットもある。
15. オーラルでは異分野を混ぜることで異分野の内容を聴く状況ができたが、ポスターはやはり混ぜこぜにしたところで他の分野の話聞いて回るまでの時間はない印象をうけた。
16. プログラムの目次が flash talk のページがいっぱいあったりして、検索に苦労した。分かりにくかったです。
17. 今回の合同大会では、発表の重複が目立ったように感じます。ワークショップの演題はすべてポスターでも発表されたので、ワークショップには参加せずポスターだけ見ました。
18. 総合して私は賛成です。頻度を高めるのにも賛成です。
19. 合同学会は普段聞くことのできないような内容に触れることができ、メリットは大きいと感じた。ただ、今回はシンポジウムやワークショップの中心課題がなんであるのかが、プログラムからでは分かりにくいものが多かった。学会の英語化は反対ではないが、このことに苦労されている先生方も多く見受けられた。シンポジウムでは海外からの発表者も多く、教育上英語はすばらしいと思いますが、小さなワークショップでは発表者、質問者が英語に苦労しているため、肝心の discussion が薄っぺらいものを感じられることが多かった。この点は、普段ちゃんぽんにしている細胞生物学会のみのやりかたに利点を感じた。
20. 可能ならば、プログラム(特にオーラル)に所属する学会のロゴを入れて欲しい。
21. This is very good combination conference.
22. 複数の学会が同一日程、同一会場で並列開催して、お互いに行き来を自由にするだけでもメリットは大きいと思います。
23. 各学会が持つ匂いというものがあるので、あまり頻度高く同じ学会との合同開催は好ましくない。将来的に発

生生物学会と融合するようなご意見には反対である。一方で、合同開催によるスケールメリットも確かにあるのを感じています。執行部は学会員の減少を食い止め、増員する方策を検討していただきたい。

24. いろいろ困難はあるでしょうが、異分野交流の意味はあると思います。
25. 3~4 演題ごとに休憩時間を入れてほしかった。
26. 異なる学会との交流は常に好ましいものとする。また、日本の全人口、学生人口が減っていく中、一定人数を確保するために合同開催や併会によってアクティビティを保ちつつ効率化を図るということも、今後の重要な方向性と思う。
27. 発生生物学会は勢いがあると思う(若い人がたくさん大会に参加している)。阿形先生の勢いも素晴らしい。細胞生物学会とは文化が違うのかもしれないが、それがまた良いのではないか？今回の合同大会は大成功でした。高橋先生、お疲れ様でした。
28. 異分野融合の成功例を次回の合同大会で情報発信(招待講演など)してほしいと思います。
29. 併設で開催して行き来を自由にするだけでも意義があると思います。
30. 細胞生物学会だけの時は、シンポジウムよりも一般発表に力点をおき、全部を口頭発表(日本語がよい)、隔年で合同大会にして、その時は、シンポとワークショップに力点を置く。
31. 企画が空回り、趣旨が不明なイベント多数、少なくとも執行部に理解を徹底させるべきではないか。空回りの原因の一つ。例えば、プログラムが分かりにくく、何故0日があるのか、混乱の要因であった。同時に何が平行しているのか気づくのに時間がかかった。続きのセッションで発表があると演者が行っても誰も気づかずにその発表は同時に他の部屋で発表されていたことがあった。
32. とても活発でよかった。ぜひ、続けてやってほしい。

両学会

1. 特に合同年会で演題数が増えると、ポスターは事前に見たい物を検索したい。今回は PDF のプログラムのタイトルのみから検索できた。要旨を公開する(会員限定?)か、せめてキーワードがプログラムに記載されていれば検索しやすくなると思います。スケジュールがかなりタイトであった。次のセッションが始まるため、ランチョンセミナーを二回とも最後まで聞くことができなかった。
2. 発表の規模と時間配分を考慮する必要がある。